

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 ドリーム	代表者	理事長 金子 敏	平成23年3月に、旧越路町で初めての小規模多機能型居宅介護として、住み慣れた地域で在宅生活をしながら「小規模多機能型居宅介護」の特性である柔軟で臨機応変なサービスを利用できる。家庭的な雰囲気の中かで、顔見知りの職員が自宅にも訪問し、使い慣れた環境の施設で通いやお泊りも実施している。 施設の環境として、農村住宅地にあり、事業所の畑もあるのでご利用者・職員とで野菜の収穫などに行きながら、周辺住民の方ともあいさつやお話し合える関係性を築いている。認知症のご利用者・ご家族から、在宅生活に不安を感じられる方も多く、併設の認知症対応型グループホームもあるので、随時相談にのっている。独居や老々世帯のご利用者も多く、緊急時や災害時に遠方のご家族も安心してご利用頂けるように定期的に近況報告や連絡をとるよう努めている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 あおぞら館	管理者	西脇 真	
法人・事業所の特徴				

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
		1人	1人	2人	1人	1人	1人	人	2人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価を行う時期は次年度7月未までに行う。管理者を中心に、計画に対する取り組みを定期的に話し合う場（ミーティング、定例会議など）を活用して、日頃より意識していく。	令和5年7月に自己評価実施。パート職員も自己評価を実施し話し合いにも参加した。	実施年月を「7月」や、具体的内容を表記し管理者を中心に行っていた。	自己評価を行う時期は次年度7月未までに行う。管理者を中心に、計画に対する取り組みを定期的に話し合う場（ミーティング、定例会議など）を活用して、日頃より意識していく。（前回と同じ）
B. 事業所のしつらえ・環境	厚生労働省、新潟県、長岡市の感染予防対策等を踏まえて法人・事業所で方針を決め、ご利用者やご家族へ新型コロナウイルス感染症の予防対策へのご理解とご協力を得られるよう文章を基に、送迎時や電話連絡などをとってコミュニケーションを図る。	新型コロナウイルス感染予防に関するお願ひ等の文書や、厚生労働省より要項が届いたら職員にも回覧して周知し、ご利用者のご家族が安心して過ごして頂けるよう努力した。	日中は施設内の換気、排煙口を天候をみて開け換気を行っている。手すりの消毒や職員は食事以外マスクを着用している。	感染予防対策は行いながら、オンラインカフェの開催も地域の方が参加できるような企画を行ってご利用者・ご家族にも参加を促す。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の対策をしつつ、体調や感染状況をみてご利用者と職員と地域行事などへ参加していく。 ※クリーン作戦（春・夏）</p>	<p>クリーン作戦は春・夏共に職員が参加した。その他の地域の活動（運動会やお祭りなど）は新型コロナウイルス感染症の予防の為に中止だった。</p>	<p>クリーン作戦には参加出来た。同一建物2階にグループホームがありその運営推進会議には越路地区の区長や民生委員も参加している。事業所の職員も活動報告を行って小規模を知ってもらう機会にしている。</p>	<p>越路地域で昨年より地域コミュニティ事業がはじまり「子育て福祉部会」に参加している。越路地域活動の機会に参加できる企画に参加していく。</p>
<p>D. 地域に外向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の予防対策を行い、天気をみて外気浴や散歩に出かけ、密にならない程度の人数でドライブへ行き、地域とのつながりを継続していく。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の予防対策を行いながら少人数でドライブへ行ったり、外気浴を行っている。</p>	<p>越路地域勉強会に職員が参加し、研修で学ぶ機会があった。オレジカフェは、事前申込みをしてもらい開催している。</p>	<p>感染症対策を行いながら、散歩やドライブに出かける。地域コミュニティ事業の活動に参加して、地域とのつながりを増やしていく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>依然として、感染症対策が続くと思われ、ため、運営推進会議を照会で行う場合に事前資料として今までの資料の他に、外部評価で活用する書類は早めに資料提供していく。</p>	<p>R5年3月までは、構成員の方々には照会でご意見をもらったり、活動報告をさせてもらうことが多かった。</p>	<p>浦地区では区長を中心に防災に関して進めたいと考えているがなかなか進まないとの事だったので、地域にある事業所として一緒に取り組めることを話合っていていきたいと答えた。</p>	<p>今後もおおぞら新聞を発行して事業所の活動を掲載し、新規のご利用者やご相談があった時や地域の方に事業所を知ってもらうための材料に活用する。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>定期的な避難訓練では、実践的な訓練を行っていくが、事業所の防災計画や、マニュアルの見直しや職員への周知を行っていく。</p>	<p>越路出張所の消防士を招いて、避難訓練・水消火器訓練を行った。同一敷地内・外の同法人合同での避難訓練も実施した。</p>	<p>事業所は水害に強い地域であるが、運営の実施範囲には多くの河川があるため早めの避難の声かけや日頃から地域とのつながりを大切に、災害時の逃げ遅れなどを防ぐ声かけをする必要がある。</p>	<p>サービス開始時や担当者会議、民生委員との連絡をとった際には、ご利用者が事業所を利用されている旨や災害時の避難場所などの確認をケアマネージャーを中心にやっていく。</p>